



多彩な移動手段の確保を今のうちから

わかつく第 344 号では、いわゆる「交通弱者」に該当する方が和歌山県民の約 3 割に上るとみられること、また住民の移動手段の大多数が自家用車によることをご紹介しました。人口減少、高齢化の一層の進展が見込まれるなか、自家用車等を運転できなくなる方も増加していくと考えられます。運転ができなくなった後の移動手段、今のうちに考えておきませんか。

駅やバス停まで歩ける？

一般的に歩くことに抵抗を感じないとされる距離は約 300m であるのに対し、高齢者等は約 100m とされる（土木学会「バスサービスハンドブック」）が、健康なうちに高齢になった後に自由に鉄道やバスを利用できるか判断することは難しい。

なお、バス停の単純な増設は、費用や地権者の許可等の兼ね合いがあり比較的困難とされる。一方、山間部の一部バス路線では「自由乗降」区間が設定されているケースがあり、この場合は、バス停以外の道路上でも安全が確保できる場所であれば乗降することができる。

GTFS とは

「General Transit Feed Specification」の略。交通機関の情報はインターネット検索で調べられるケースが多いこと、事業者の大小を問わずデータを標準化することで多彩なウェブサービスと連携することが可能なことなどから、2010 年代後半から全国各地で活用が進んでいる。

バス停、路線名、時刻、運賃などの情報を csv ファイル（テキストファイルの一種）に格納する。csv ファイルを生成できるツールも公開されており、比較的容易にデータの作成が可能とされる。

Google マップでのバス停情報の見方 (PC 版)

- 【1】 Google マップを拡大表示し、バス停のアイコンをクリック（右のアイコンはイメージです）
- 【2】 GTFS データが公開されている場合はバス停の基本情報内に「出発案内を見る」ボタンがあるためクリックすると、現在時刻から先のダイヤと行き先が表示される

Google マップでの経路検索の仕方 (PC 版)

- 【1】 経路を調べたい施設等をクリックし、「ルート・乗換」を選択。施設等ではない場合は右クリックで地点を選択したうえで「ここへのルート」を選択。
- 【2】 出発地を入力もしくはは選択。
- 【3】 出発地・目的地の入力欄の上に交通手段を選択できるボタンがあるため、「おすすめ」を選択すると、その時間帯で推奨される交通手段が表示される。「公共交通機関」を選択すると公共交通機関の利用を優先した経路が表示される。

鉄道やバスは「年をいってから」使う？

最近、全国各地で鉄道やバス路線の大幅な減便や廃止の議論が沸き起こっています。報道や公共交通に関する調査など、様々な場面で「自動車を運転できなくなったら鉄道やバスを利用するようになると思う」という意見がみられます。

これに対して、県内のあるバス事業者の幹部は「このようなお意見は私たちがよく聞かれています。ただ実際はそうではありません」と指摘します。「自動車の運転が困難になる状態まで身体機能が衰えるということ

交通機関の情報発信が進む

公共交通機関の利用促進を進めるうえで、課題のひとつは「身近にどんな路線が通っているのか知られていない」ことだといわれています。これに対して、鉄道

「わからない」という事情も重なり、余計に鉄道やバスが移動の選択肢には入らなくなる、といわれています。

また「将来は使うかもしれない（ので、現在の路線は廃止しないでほしい）」といわれても、現在利用されないものであれば、現状ですら運営が厳しい路線の維持にはまったくプラスにはならず、「本当に将来は使うかもしれないのであれば、今からでも、たまにでもいいので実際に利用してほしい」と訴えます。

「GTFS」とよばれる標準フォーマットで作成されたオープンデータは和歌山県内のすべての路線バス事業者が公開しているほか、自治体のコミュニティバス等も一部を除いて公開されています。

また、県内のタクシー事業者のなかにもスマートフォンアプリで配車予約等ができるケースが増えてきています。GPS 機能を活用し、タクシーの待

要なウェブサイトで乗り換え検索ができるようになってきていますし、和歌山県内のバス路線のバス停位置や運行ダイヤのオープンデータ

化が進んでいます。もともと、鉄道の駅から観光地までの交通手段に関する情報提供を目的に整備がすすめられたものですが、オープンデータ化することで誰でも活用できるようになっていきます。

一度、ご自宅や勤務先の最寄りの駅やバス停を Google マップ上で探していただき、どこに行く列車、バスが運行されているか検索してみてください。

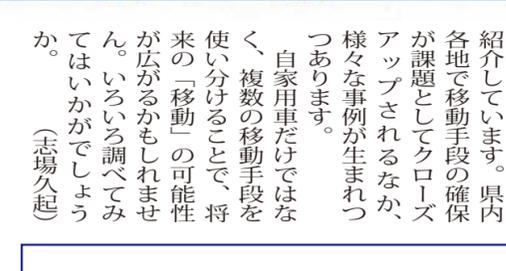
また、県内のタクシー事業者のなかにもスマートフォンアプリで配車予約等ができるケースが増えてきています。GPS 機能を活用し、タクシーの待

移動手段の整備の動きも

現時点では和歌山県内では「日本版ライドシェア」は実施されていませんが、国は早期に全都道府県で事業を実施する方針を掲げています。一方、ライドシェアの担い手をどう確保するかが課題だとい声もあります。和歌山県では「自動運転バス」の実証運行も始まっていますが、全国

「わかつく」第 332 号では福祉的な側面から移動困難な方の移動を支援する「福祉有償運送」や、道路運送法の枠外で運賃を設定せず実費のみの負担で移動を支援する「助けあい輸送」についてご紹介しています。県内各地で移動手段の確保が課題としてクローズアップされるなか、様々な事例が生まれています。

自家用車だけではなく、複数の移動手段を使い分けることで、将来の「移動」の可能性が広がるかもしれません。いろいろ調べてみてはいかがでしょうか。（志場久起）



2024 年度 わかやま SDGs パートナーシップ基金 今年度のご寄附を受け付けています

みんなの力で SDGs 達成を！

今年度は子ども食堂・地域食堂をはじめ、 地域コミュニティの再生につながる活動を応援します

和歌山県内の「子ども食堂」は和歌山県調べで 78 力所（2024 年 7 月末現在・和歌山県調べ）となっており、年々増加中。和歌山県は全小学校区に 1 力所、約 200 力所の子ども食堂の開設を目指して取り組みを進めています。

名称こそ「子ども食堂」ですが、子どもだけではなく、保護者、一人暮らしの年寄りなど様々な方が利用できる「地域食堂」としての役割を担う場所が増えており、子ども食堂・地域食堂が「地域コミュニティの核のひとつ」を担えるのではないかと期待されています。

一方、住民が集まれる場として、自宅にある不要になった本を持ち寄りみんなで共有し楽しむ「みんなの図書館」、空き家や空き店舗を活用した「みんなの居場所」などといった形での地域コミュニティの再生を目指す取り組みも急速に広がっています。

そこで、今年度のわかやま SDGs パートナーシップ基金では、子ども食堂や地域食堂など「食を通じた地域福祉・コミュニティ再生」、みんなの居場所など「コミュニティづくり活動」に携わる団体に対する助成を実施します。現在、この助成金の原資となる基金へのご寄附受付を実施しています。

高齢化の進展だけではなく、高齢人口の減少も始まり、今後の地域の担い手になる現役世代への負担がますます増大することが懸念されています。みなさんのご寄附を、地域コミュニティの再生等に役立てられるよう準備を進めています。ぜひみなさんのご協力をいただきますようお願いいたします。

主な使途

- ▶ 子ども食堂・地域食堂の運営経費
 - ▶ みんなの図書館・みんなの居場所の運営経費・初期費用として
- 特に、その事業をおこなうことで「地域にどのような効果が期待できるのか」を重視して、審査を実施する予定です。

ご支援の方法

- ▶ 1 口 3,000 円からクレジットカード決済・銀行口座への振り込みにより受け付けます。右の QR コードからアクセスできます。
- ▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。

※ 寄附金控除について

個人の方は、ご寄附いただいた金額から 2,000 円を差し引いた金額の最大 50%が、確定申告により所得税等から控除されます。（例）1 万円をご寄附いただいた場合は、最大 4,000 円が所得税等から控除されます。

法人の場合は損金算入限度額が拡大されます。（例）資本金 1,000 万円、所得金額 1,000 万円の場合、一般損金算入限度額約 6.9 万円とは別に、特別損金算入限度額約 33.1 万円までのご寄附が損金に算入できます。

【運営】

認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 info@wnc.jp https://wnc.jp/
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】



和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会だより

和歌山市 NPO・ボランティアフェスタ

日程 11月24日(日)
13:00～15:00
場所 ガーデンパーク和歌山・屋外広場
内容 和歌山市内で活動している NPO・ボランティア団体等による体験ブース、ステージイベント
参加費 無料
主催 和歌山市 NPO・ボランティアフェスタ実行委員会
備考 雨天時は中止となりますのでご注意ください